

2025年1月

養成関係

カリキュラム

上級デジタルアーキビスト（2025年1月9日改定）

○必要単位 20単位<必修科目12単位+選択科目8単位>

必修科目 【12単位】		
授業名	内容	単位
デジタルアーカイブ論	知識基盤社会を支えるデジタルアーカイブの必要性、国内外の事例、省庁資料、法制度についての理解を深める。また、パブリックのみならず、パーソナルなアーカイブを遺す必要性や、オープン化、3D、AI等の活用等の動向についての知見を深める。	2
デジタルアーカイブ経営論	デジタルアーカイブを組織的に開発・運営していくために必要なヒト・モノ・カネ・情報や他機関との連携、人材育成をマネジメントするための能力を養う。	2
知的財産等権利処理特講	デジタルアーカイブを作成する際に必要となる著作権、肖像権、個人情報、プライバシーなどの制度を理解し、慣習にも配慮するなど実践で対応できる能力を養う。	2
デジタルコンテンツ作成演習	デジタルアーカイブ構築に関する技術として、撮影やスキャニング等の多様な対象のデジタル化や、デジタルデータの加工などを含む実践能力を養う。	2
デジタルアーカイブ構築演習	これまでに修得した知識・技術を活かし、デジタルアーカイブの構築から公開までに必要な能力を養う。その際、IIIFなどの国際的に用いられている方法の採用や、API等を利用した他機関との連携、使いやすさ・ユニバーサルデザインにも留意する。	4

※各科目該当の変更(振替)の履修可

選択科目【8単位以上】（2分野以上から選択）			
分野	内 容	授業名(例)	単位(例)
対象	デジタルアーカイブの対象や文化の理解に関するもの。特定の分野における既存のデジタルアーカイブの活用も含む。	文化学特講	2
		社会言語学特講	2
		伝統文化特講	2
		地域文化特講	2
		カリキュラム開発特講 など	2
理論	デジタルアーカイブを取り囲む制度、運用のための組織体制、知識の体系化など理論的な内容を主とするもの。	メディア論	2
		文化資料研究	2
		MLA 資料研究	2
		オーラルヒストリー研究	2
		実践研究Ⅰ など	2
技術	デジタルアーカイブの構築や運用に関する情報技術を主に扱うもの。	実践研究Ⅱ	2
		教材開発特講	2
		教材開発研究	2
		教材情報特講 など	2
※その他大学院が申請した認定科目			

上級デジタルアーキビスト（旧カリキュラム）

当面は旧カリキュラムも認めますが、順次新カリキュラムへ移行してください。

○必要単位 20 単位<必修科目 12 単位+選択科目 8 単位>

必修科目 【12 単位】	
授 業 名	単 位
文化メディア特講	4
デジタルアーカイブ特講	4
文化メディア演習	2
デジタルアーカイブ演習	2

※各科目該当の変更(振替)の履修可

選択科目【8 単位以上】（2 分野以上から選択）		
分 野	授業名(例)	単位(例)
情報管理・流通関係	文化情報管理特講	4
	文化情報検索特講	2
	遠隔教育特講など	2
文化関係	文化学特講	2
	言語学特講	2
	伝統文化特講など	6
文化情報関係	教材開発特講	4
	教育情報特講	4
	教育メディア特講	2
	アーカイブ研究など	4
※その他大学院が申請した認定科目		

※情報管理・流通関係分野の科目を取得

デジタルアーキビスト（2020年10月2日改定）

○必要単位 32単位＜必修科目12単位＋選択分野20単位＞

○選択分野については、選択した分野の資格取得（教員免許、博物館学員、図書館司書、観光関連資格）もしくは、専門単位の取得を条件とする。
（各機関で設定）

必修科目 【12単位】			
領域	科目	内容	単位
概論	デジタルアーカイブ概論	デジタルアーカイブとは、対象、保存・管理・活用、法と倫理、多様なデジタルアーカイブ	2
対象	デジタルアーカイブ文化・メディア論	アーカイブによる知の循環型社会、文化の理解、対象メディア、利用者の求めるメディア	2
保存・管理	デジタルアーカイブ対象選定・権利処理	法・倫理、契約書・承諾書作成、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス等	2
	デジタル保存・管理技術	デジタル化、メタデータ付与、長期保存・マイグレーション、リンクドデータ、IIIF、DOI	2
運用	デジタルアーカイブ経営論	企画・開発、運用、活用、人材育成、ユニバーサルデザイン、多様な開発事例研究	2
	デジタルアーカイブ政策論	内外の政策的課題、オープンデータ化、分野横断型統合ポータルへの接続、検索技能向上	2

選択分野 【20単位】	
分野	
デジタルアーカイブと教育	各大学・認定機関においてデジタルアーカイブを活用する関係科目・資格を認定
デジタルアーカイブと博物館	
デジタルアーカイブと図書館	
デジタルアーカイブと産業	
デジタルアーカイブと自治体	
デジタルアーカイブ専門職技能	

【デジタルアーキビスト 大学向け科目名例】

必修科目 【12単位】			
領域	科目	内容	単位
デジタルアーカイブ 概論	1 概論	デジタルアーカイブとは、対象、保存・管理・活用、法と倫理、多様なデジタルアーカイブ	2
	2 経営論	企画・開発、運用、活用、人材育成、ユニバーサルデザイン、多様な開発事例研究	2
	3 政策論	内外の政策的課題、オープンデータ化、分野横断型統合ポータルへの接続、検索技能向上	2
デジタルアーカイブ メディア論	1 文化・メディア論	アーカイブによる知の循環型社会、文化の理解、対象メディア、利用者の求めるメディア	2
	2 対象選定・権利処理	法・倫理、契約書・承諾書作成、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス等	2
	3 保存・管理技術	デジタル化、メタデータ付与、長期保存・マイグレーション、リンクドデータ、IIIF、DOI	2

選択分野 【20単位】	
分野	
デジタルアーカイブと教育	各大学・認定機関においてデジタルアーカイブを活用する関係科目・資格を認定
デジタルアーカイブと博物館	
デジタルアーカイブと図書館	
デジタルアーカイブと産業	
デジタルアーカイブと自治体	
デジタルアーカイブ専門職技能	

デジタルアーキビスト（旧カリキュラム）

当面は旧カリキュラムも認めますが、順次新カリキュラムへ移行してください。

- 必要単位 必修科目 10 単位＋選択科目 2 単位以上＋選択分野
- 選択分野については、選択した分野の資格取得（教員免許、博物館学員、図書館司書、観光関連資格）もしくは、専門単位の取得を条件とする。
（各機関で設定）

必修科目 【10 単位】	
科 目	単 位
デジタルアーカイブ文化論	2
デジタルアーカイブメディア論	2
計画と資料の収集	2
デジタルアーカイブ選定評価	2
保存とメタデータ	2

選択科目 【2 単位以上】	
科 目	単 位
デジタルアーカイブ実践	2
デジタルアーカイブ活用と評価	2

選択分野	
分 野	内 容
デジタルアーカイブと教育	教育業界におけるデジタルアーカイブの活用
デジタルアーカイブと博物館	博物館業界におけるデジタルアーカイブの活用
デジタルアーカイブと図書館	図書館業界におけるデジタルアーカイブの活用
デジタルアーカイブ活用と観光	観光業界におけるデジタルアーカイブの活用
デジタルアーカイブと提示	デジタルアーカイブの提示（プレゼンテーション）の専門的技能等
デジタルアーカイブと収集	デジタルアーカイブの撮影等のデジタル化の専門技能

デジタルアーキビスト (旧カリキュラム詳細・2014年2月資格検討委員会)

分野	科目	内容	
学 事 習 前	デジタルアーカイブ入門	デジタルアーキビストとは、デジタルアーカイブとは デジタルアーカイブの歴史 デジタルアーカイブの収集・記録・保存・処理の流れ	
デ ジ タ ル ア ー キ ビ ス ト 必 須 分 野	①デジタルアーカイブ文化論	デジタルアーカイブによる文化の伝承とは(文化の伝統と過去・現在・未来) 長期保存と短期保存の対象となる文化 デジタルアーカイブの理解を深めるための関連分野の事例	
	②デジタルアーカイブメディア論	情報源としてのメディアの特性(メディア環境) メディアの利用(収集、保存、管理、発信) 利用者からみたメディア(メディア利用の開放、ハイブリットメディアの活用)、メディアの耐久性(長期保存)	
	③計画と資料の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルアーカイブの計画(収集、取材の方法、スケジューリングなど) ・資料の収集とデジタル化(現物、印刷、デジタルメディア、通信等のメディア) ・デジタルメディアの一時保存(Item Pool)とメタデータの構成 ・保存構成(単体保存、集合保存、構成保存) 	
	④デジタルアーカイブ選定評価	デジタルアーカイブの対象の選定評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・文化的価値からの選定評価 ・知的財産権、プライバシー、倫理、 ・慣習、利益、社会的背景等の評価 ・短期保存および長期保存のための選定評価 	
	⑤保存とメタデータ	デジタルアーカイブとして情報を管理するメタデータ、シソーラス 一時・短期・長期保存(Item Bank)のメタデータシステムの制作と管理	
選 択 科 目 (Ⅰ)	デジタルアーカイブ実践	<ul style="list-style-type: none"> ・構成(単体保存、集合保存、構成保存)を考慮したデジタルアーカイブの収集、制作、活用方法を学び実践 ・利用を見据え情報の管理である短期保存、および、未来を見据えた情報の管理である長期保存するデジタルアーカイブ開発の実践 	
	デジタルアーカイブ活用と評価	印刷メディア、デジタルメディア、通信メディア等、様々なメディアを用いたデジタルアーカイブの活用と社会的評価を学びその実践 提示等、デジタルアーカイブの新しい活用を学びその実践	
選 択 分 野 (Ⅱ)	デジタルアーカイブと教育	教育業界におけるデジタルアーカイブの活用	教育
	デジタルアーカイブと博物館	博物館業界におけるデジタルアーカイブの活用	博物館
	デジタルアーカイブと図書館	図書館業界におけるデジタルアーカイブの活用	図書館
	デジタルアーカイブと観光	観光業界におけるデジタルアーカイブの活用	観光
	デジタルアーカイブと提示	デジタルアーカイブの提示(プレゼンテーション)の専門的技能等	提示
	デジタルアーカイブと収集	デジタルアーカイブの撮影等のデジタル化の専門技能	収集



選択分野については、選択した分野の資格の取得(教員免許、博物館学芸員、図書館司書、観光関連資格)もしくは、専門単位の取得を条件とする。(各教育機関で設定)

準デジタルアーキビスト（新標準カリキュラム詳細・2021年5月28日改定）

科目	内容
デジタルアーカイブとは	分野横断型統合ポータル等多様なデジタルアーカイブを基盤にした知識循環型社会、デジタルアーキビストの活動、デジタルアーカイブ開発のプロセス
対象の理解	文化・科学・産業・地域に広がる対象、対象の理解に基づく利用者の求める多様なメディアのデジタル化
資料選定・権利処理	ニーズ把握、権利処理による法・倫理（知的財産権、肖像権、プライバシー保護、慣習等）への対応、ライセンス表示、授業目的公衆送信補償金制度の利用
資料の記録	多様なメディアに対応したデジタル化（撮影・スキャン・録音・OCR等）の基礎知識、メタデータ付与
資料の保存・管理	データベース、データの登録、データの検索、長期保存・マイグレーション、リンクドデータ、IIIF、DOI

準デジタルアーキビスト（旧カリキュラム）

当面は旧カリキュラムも認めますが、順次新カリキュラムへ移行してください。

デジタルアーカイブとは
デジタルアーカイブ作成のプロセスとデジタルアーキビストの活動
法的理解と情報倫理（著作権、プライバシー等の資料の選定・評価）
資料の記録（撮影の基礎知識等）
資料の保存（データの保存等）
資料の管理（データベース、データの登録、データの検索等）
デジタルアーカイブの利用

デジタルアーカイブクリエイター

デジタルアーカイブとは

デジタルアーカイブ作成のプロセス

資料の記録（撮影の基礎知識、インタビュー技法等）

資料の登録・保存・管理・流通

ガイドラインの事例（知的財産権、肖像権に関する基本的な知識等）

試験（認定）料・養成機関認定料等の定め

1. 試験料・認定料

区 分	試験（または認定）料金
上級デジタルアーキビスト	（認定料） 2万円
デジタルアーキビスト	1万円
準デジタルアーキビスト	6千円
デジタルアーカイブクリエイター	（認定料） 5千円

※社会人の方で上級デジタルアーキビスト審査認定を受験される場合は、別途審査料として3万円が発生します。

2. 養成機関認定料及び更新料

区 分	認 定 料	更 新 料
すべての種類のデジタルアーキビストを養成する場合	50万円	20万円
上級を除くデジタルアーキビストを養成する場合	20万円	10万円
上記以外の場合	10万円	3万円

講習会開催について

デジタルアーキビスト

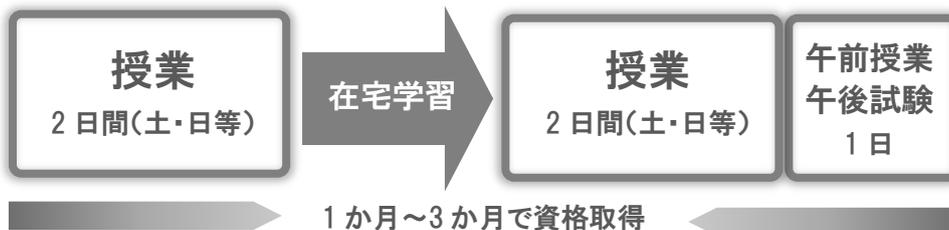
受講対象

- ① 準デジタルアーキビスト資格取得者で、大学を卒業し、3年以上の社会経験を有する者
- ② 準デジタルアーキビスト資格取得者で、短大または専門学校を卒業し、5年以上の社会経験を有する者
- ③ その他認定養成機関が認めた者 ※審査有り

受講期間

5日間の講習（授業4.5日+試験半日）および在宅学習

（例）



受講料

50,000円～100,000円（認定養成機関で設定）

受験料

10,000円

認定試験

授業の最後に実施

試験時間 90分

70点以上合格

2011年4月施行

準デジタルアーキビスト

標準カリキュラム

デジタルアーカイブとは

対象の理解

資料選定・権利処理

資料の記録

資料の保存・管理

受講対象

高校生以上

社会人

実施時間

2日間（社会人の場合は1日も可）

受講料

認定養成機関で設定

受験料

6,000円

認定試験

授業の最後に実施

試験時間 60分

70点以上合格

デジタルアーカイブクリエイター

標準カリキュラム

デジタルアーカイブとは

デジタルアーカイブ作成のプロセス

資料の記録（撮影の基礎知識、インタビュー技法等）

資料の登録 ・ 保存 ・ 管理 ・ 流通

ガイドラインの事例（知的財産権、肖像権に関する基本的な知識等）

※ガイドラインの事例…当面は、災害記録を例として提示し、従来同様著作権、情報倫理等の講義を行う。具体的なガイドラインを順次整備する。

※インタビュー技法等…当面は、オーラルヒストリーのインタビュー取材等を事例として留意点を提示する。

受講対象

高校生以上

社会人

実施時間

2日間（社会人の場合は1日も可）

受講料

認定養成機関で設定

認定料

5,000円

認定試験

なし

資格試験・認定 <委託業務> —申請・報告手順—

試験や講習会を実施いただく場合は申請と報告が必要です。
 下記を参考の上、書類の提出等をお願いいたします。

書類提出先

特定非営利活動法人日本デジタルアーキビスト資格認定機構 事務局

E-mail jdaa.jimu@gmail.com

住 所 〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町 10 番地杉山ビル 4F
 岐阜女子大学文化情報研究センター内

TEL : 058-267-5301 / FAX : 058-267-5238

1 申 請

◇ 提出書類

	様式	上級	DA	準	DAC
申請書	様式 1	○	○	○	○

※DAC はデジタルアーカイブクリエータ

※提出はデータ、紙いずれでも可

◇ 提出期限

試験実施日より 1 か月前まで

※講習会を開催し試験を実施する場合は 3 か月前まで

※講習会の実施申請をいただきましたら当機構ウェブサイトやメールマガジンでも広報させていただきます。

2 報 告

◇ 提出書類

	様式	上級	DA	準	DAC
報告書	様式 2	○	○	○	○
受験者（認定者）リスト	様式 3	○	○	○	○
試験申込書・認定申請書(全員分)	様式 4	○	○	○	○
試験問題<1部>		/	○	○	/
単位取得証明書	様式 5	○	△	/	/
学位論文記入書	様式 6	○	/	/	/

※DACはデジタルアーカイブクリエイター

※提出はデータ、紙いづれでも可

※△は、学内の学生対象の場合は要提出、社会人対象の場合は不要。

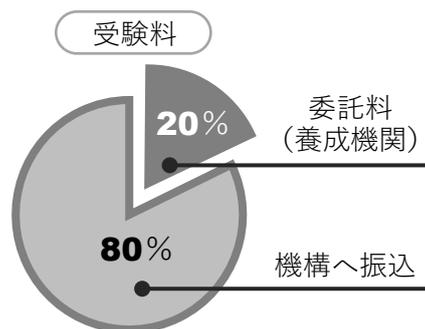
◇ 提出期限

試験日より2週間以内

◇ 受験料

受験料の20%が委託料です。

委託料（20%）を差し引いた金額を
下記口座にお振込ください。



<振込先>

三菱UFJ銀行 四谷支店 普通預金 口座番号1281260
特定非営利活動法人日本デジタルアーキビスト資格認定機構

※受験料の請求書が必要な場合は、あらかじめご連絡ください。

※委託料を差し引かず全額振り込む場合は、当機構より委託料を振り込みます。試験実施についての委託料の請求書（様式指定なし）をお送りください。

3 認 定

当機構より認定証または不合格通知の発送を行います。

認定証の発送は報告書類を頂いてから10営業日前後かかります。

テキストについて

テキスト

書名：デジタルアーカイブの理論と実践 ―デジタルアーキビスト入門―

編集：特定非営利活動法人日本デジタルアーキビスト資格認定機構

編集責任：井上透、大井将生、細川季穂

出版社：樹村房

発行日：2023年4月1日

ISBN：978-4-88367-379-7

判型：B5（108ページ）

定価：本体1,430円（本体1,300円＋税10%）

URL：https://jusunbo.co.jp/books/287_index_detail.php



購入方法：書店への注文または、オンラインから購入できます。

（日本デジタルアーキビスト資格認定機構ではお取り扱いしていません）